

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 14 日現在

機関番号：33925

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580120

研究課題名(和文)自治体による医療通訳者養成と活用：＜あいち医療通訳システム＞検証と全国モデル構築

研究課題名(英文)The process of building up the "Aichi Medical Interpreting System" and its future

研究代表者

浅野 輝子 (Asano, Teruko)

名古屋外国語大学・現代国際学部・教授

研究者番号：90387861

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：あいち医療通訳システム認定者にアンケート調査を行い、派遣実績調査報告書をまとめた。オーストラリアとニュージーランドにて医療通訳者にインタビューし、海外での実情を調査した。日本通訳翻訳学会第16回年次大会において研究発表を行い、あいち医療通訳システムの全国的周知が出来た。国際医療通訳シンポジウム&ワークショップを行い、国内外の現状、課題点について意見交換が出来た。日本語を話す世界中の医療従事者向けに「Introduction to Healthcare for Japanese-speaking Interpreters and Translators」を出版した。

研究成果の概要(英文)：Conducted a survey for the certified interpreters at AiMIS and compiled a report based on its results. Had interviews with professional medical interpreters in Australia and New Zealand to research the current situation overseas. Made an oral presentation at the 16th JAITS annual conference and presented this system as a role model for the future medical interpreting system in Japan. Also, the well-known scholars and researchers in the medical field gathered from New Zealand and other areas of Japan, and a successful international symposium and workshop was held in Aichi prefecture and exchanged opinions on the present situation and future challenges to build up the nationwide medical interpreting system. Lastly, "Introduction to Healthcare for Japanese-speaking Interpreters and Translators" which is a Japanese adaptation of the original book written by Dr. Ineke H.M. Crezee was published by John Benjamins Publishing Company as a useful handbook for the future training programs.

研究分野：通訳教育(医療通訳者養成)

 キーワード：医療通訳 あいち医療通訳システム フォローアップ研修 国際医療通訳シンポジウム テキスト出版
 医療通訳者の派遣実績報告書

1. 研究開始当初の背景

愛知県では、2011年度より全国に先駆けて同県内の自治体、医療関係団体、大学が連携し、「あいち医療通訳システム」を発足させ、医療通訳者を認定してきた。本研究では、その3年の実施期間を振り返り、探求することで更なる進化を模索する。

2. 研究の目的

(1) 英語だけでなく多言語による医療通訳が日本で必要とされているが、現在の医療通訳者はボランティアベースで活躍しており、医療における位置づけが定義されていないため、本研究を通じて国際基準に沿った医療通訳制度の策定を目指す。

(2) 医療通訳者を養成するための手法を構築し、医療通訳者の能力の評価、教育技法を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 「あいち医療通訳システム」を、国内の他地域の既存の養成システム、また、海外の事情と比較し評価する。

(2) 認定を受けた医療通訳者へのアンケートやインタビューを実施することで、問題点や課題を明らかにする。

(3) 将来への更なる進歩した形での医療通訳システムを構築し、模範的且つ普遍的モデルを提示する。

4. 研究成果

(1) あいち医療通訳システム認定者にアンケート調査を行い、実績報告書をまとめた。愛知県は、2011年度にあいち医療通訳システムを自治体として全国に先駆けて創設し、これまで英語、中国語、ポルトガル語、フィリピン語の各言語、合計約270名の医療通訳者を養成し、派遣事業を行ってきた。しかし、修了者が具体的にどのような言語支援を行っているかについて、明らかになっていなかった。そこで、2015年2月、実態調査と将来の課題抽出のため、あいち医療通訳システムにおいて養成、認定された実績のある医療通訳者47名にオンライン上で選択式・自由記述式アンケート調査を行った。その結果、フォローアップ研修に対する要望が強いことが分かった。このアンケート結果を受けて、2016年度よりフォローアップ研修の回数が年1回から3回に増え、また、派遣件数が多い診療科である精神科、内科の感染症についてなど、より充実した内容の研修が出来ている。このアンケート調査の結果は、「2015 あいち医療通訳システム 認定医療通訳者の派遣実績調査報告書」として名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンターより2017年2月に出版した。

(2) オーストラリアとニュージーランドにて医療通訳者にインタビューし、海外での実情を調査した。オーストラリアのシドニーにおいて、10名のNAATIの医療通訳者、大学院通訳翻訳講師、病院医療通訳サービスコーディネーター、フリーランス医療通訳者らにインタビューした結果、NAATIの資格認定試験は、一般的な通訳技術のみを判定する試験であり、試験合格後に司法、医療、ビジネスの各専門分野に分かれてそれぞれ受講する。毎週3時間の授業が13週にわたって行われる、非常に内容が濃いものになっている。一方、大学院では、多言語を対象とした理論研究と言語学研究を行い、多岐に渡るロールプレイを導入している。オーストラリアの国民健康保険制度に関しては、永住者に手厚い福祉があり、公立病院、GP (General Practitioner) は無料で受診できる。通訳料も無料 (政府負担)。電話通訳も普及している。現在 NAATI に登録している日英翻訳者は全オーストラリアで40~50名。登録の条件は、IELTS6.0以上である。これに加え、資格更新の際に新たなポイント制度が2006年から2007年に導入された。カンバーランド病院にて医療通訳サービスコーディネーターを務める全豪医療通訳者養成委員会委員によると、ニューサウスウェールズ州では、法律の下で言語サービスを医療分野で提供しなければならない規定がある。医療通訳サービスでは、120言語以上の言語に対応しているが、難民への通訳は資格を得ていない者が通訳することもある。現在、需要が高い言語としては、アラビア語、中国語、広東語、ベトナム語、ファジー語、イタリア語、ギリシャ語などがあげられる。2000年シドニーオリンピック・パラリンピック開催時に、この委員は、ニューサウスウェールズ州政府が無料で24時間利用できるオリンピック村の診療施設を設置し、医療を提供した際に、通訳サービスの提供に深く携わり、通訳サービスについては国連の公用語であるアラビア語、スペイン語、フランス語、中国語、ロシア語の5言語で提供した。また、ニュージーランドでは、中国語・英語医療通訳者とサモア語・英語医療通訳者にインタビューし、前者は、北島のオークランドでは対面式の通訳が一般的だが、南島では電話通訳が一般的であり、ニュージーランドの医療制度は香港や中国に比べて、医師や看護師が患者としっかり向きあっている点で優れていると語った。後者は、法廷通訳事件に於ける精神疾患の被告人 (サモア人) の通訳など精神科医と患者との医療通訳を多く手掛け、精神科での通訳の特徴として、言葉のみならず、非言語である顔の表情 (facial expression) を正しく読み取り、医師に伝達し通訳することが求められると語り、SamoaのChief (首長) “Matai” の肩書も名前によって様々な階級があり、その階級の上下によって話す言葉も異なるので、適切な言葉で等価に

通訳する為には、サモアの文化を深く理解することが重要であると語り、医療通訳者養成において各国の医療文化を教えることの重要性を説いた。これらの海外でのインタビュー結果は、将来的な日本の医療通訳制度、とりわけ 2020 年開催の東京オリンピック選手村での医療通訳サービス提供に寄与するものとなった。

(3) 日本通訳翻訳学会第 16 回年次大会において研究発表を行い、全国に先駆けて発足したあいち医療通訳システムの周知が出来、研究発表で提案事項として、今後レベルの高い研修会を継続的に行うことを示唆した。これについては、既に名古屋外国語大学にて英語医療通訳認定者が集まり、年数回自主勉強会を実施しており、医療現場の体験をもとにしたシナリオを教材として使用している。また、本研究発表は、医療通訳者の置かれている働く環境についても権利擁護や報酬などの面でより良い改善を促した。この研究発表を通して、他府県にもあいち医療通訳システムと同様のシステム構築の動きが出ており、全国展開が期待される。

(4) 2016 年 5 月に「国際医療通訳シンポジウム&ワークショップ」を名古屋外国語大学にて開催し、当日は学内外から約 200 名の参加者を得た。第 1 部では、ニュージーランドのオークランド工科大学より Ineke H.M. Crezee 博士を迎え、基調講演を行って頂いた。第 2 部では愛知県庁の多文化共生推進室より大橋充人様、大阪大学大学院より南谷かおり先生、ペドリサ・ルイス先生、日本大学医学部より押味貴之先生をお招きし、それぞれの専門分野からプレゼンテーションを行って頂いた。また、「日本における医療通訳システムの展望 あいち医療通訳システムをモデルとして」と題して、Crezee 博士と共にディスカッションを行った。第 3 部の国際医療通訳ワークショップでは、会場の聴衆も参加し、Crezee 博士及び押味先生と共にロールプレイを行い、充実した内容となった。国内外の現状、課題点について意見交換が出来、参加者からは非常に有意義なシンポジウムであったと高い評価を得た。また、当シンポジウムは、全国レベルでの医療通訳資格認定制度発足への動きに大きく寄与すると共に、一般の人々や学生にも医療通訳者の仕事内容を周知する良い機会となった。

(5) 「国際医療通訳シンポジウム&ワークショップ」の基調講演者である Ineke H.M. Crezee 博士の依頼により、Crezee 博士の著書「Introduction to Healthcare for Interpreters and Translators」の日本版を、共著「Introduction to Healthcare for Japanese-speaking Interpreters and Translators」として、2016 年 12 月にオランダの John Benjamins Publishing Company よ

り出版した。この日本版には、日本の医療文化、保険制度、医療通訳制度などの追加の章を英語で執筆し、日英の語彙集を入れた。この出版により、国外においては、日本語を話す医療従事者及び医療通訳者が日本の医療文化・保険制度を学ぶことが出来、国内では、日英医療通訳者養成講座や自主学習者にも医療専門知識及び通訳技法を共に提供する有益なテキストとなっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

浅野 輝子、服部 しのぶ 他、The process of building up the “Aichi Medical Interpreting System” and its future、Man vs. Machine?、査読無、Vol.1、2014、pp.493-501

〔学会発表〕(計 2 件)

浅野 輝子 他、医療通訳経験者の派遣内容から見てきたもの あいち医療通訳システムの今後の課題、日本通訳翻訳学会第 16 回年次大会、2015 年 9 月 12 日～2015 年 9 月 13 日、青山学院大学(東京都・渋谷区)

浅野 輝子 他、The process of building up the “Aichi Medical Interpreting System” and its future、The XXth FIT World Congress、2014 年 8 月 4 日～2014 年 8 月 7 日、ベルリン(ドイツ)

〔図書〕(計 1 件)

Ineke H.M. Crezee、浅野 輝子、John Benjamins Publishing Company、Introduction to Healthcare for Japanese-speaking Interpreters and Translators、2016、412

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅野 輝子 (ASANO, Teruko)
名古屋外国語大学・現代国際学部・教授
研究者番号：90387861

(2) 研究分担者

服部 しのぶ (HATTORI, Shinobu)
藤田保健衛生大学・保健学研究科・准教授
研究者番号：40321012

村井 はるか (MURAI, Haruka)
藤田保健衛生大学・保健学研究科・准教授
研究者番号：90647893

津田 守 (TSUDA, Mamoru)
名古屋外国語大学・現代国際学部・教授
研究者番号：50163811

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

花村 加奈子 (HANAMURA, Kanako)